



Title	形象 7号 目次
Author(s)	
Citation	形象. 2026, 7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104213
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目次

形象 7

【形象論研究会網領】

ホモ・ビクテール

描く人の倫理と冒険

——われわれの問いのめざすもの

4

【特集1】

危機のイメージ／イメージの危機——形象のゆくえを三つのKから考える

「作戦行動をとる」知識人の使命

竹峰 義和

15

——ベンヤミン「技術的複製可能性の時代における芸術作品」における言説戦略

現代イギリスの「公式戦争アート」について

石田 圭子

31

一九二〇年代末のバウハウスにおける人間観

三木 順子

43

——早すぎたポストヒューマニズムか、遅すぎたヒューマニズムか

人間の彼方からうたう

柿木 伸之

59

——破局からの詩学のために

【特集2】

モダニズムの政治学をめぐって

アドルノ「今日の機能主義」再考

府川純一郎

87

——目的と無目的、想像力と即物性との間で

紙面と壁面のはざまで

磯谷 有亮

103

——両世界大戦間期フランスにおける写真の展開

ネガティヴ・モダニズム

二宮 望

127

——ハンス・ゼードルマイヤと戦後ドイツのモダニズム芸術論

アルフレッド・H・バー・Jr.によるモダニズム美術史の創造と「甦った」抽象美術

石田 圭子

147

——第二次世界大戦期における政治との連関から考える

【一般論文】

記憶の痕跡の中のユートピア

高橋 奏子

159

——アドルノはなぜ子ども時代を語るのか